

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1278400096		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム 安房穂		
所在地	千葉県南房総市和田町仁我浦19番地7		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成23年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成23年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりが、自立心を保ちながら、自分らしく暮らし続けられる様な環境づくりや支援を大切にしています。
地域との交流を大切にしながらいろいろな行事に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR和田浦駅より徒歩数分の所に立地し、海が見える環境に恵まれたホームです。
このホームの良い所は、母体が医療法人で、敷地内に医院、歯科医院、通所リハビリの施設があり、行事等で連携していることです。特に医療面、健康面に力を入れており、定期的又は随時に内科、歯科医の受診ができる体制になっています。職員に歯科衛生士もいるので、食後の口腔ケア介助もしています。
サービスでは、利用者本位に支援し、理念にも掲げている「心から家族と思える介護」を実践しており、これまで看取りを数人実施し家族から感謝されています。又温泉浴場を備えており、ホームの利用者、通所リハビリ利用者が入浴を楽しんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「グループホーム安房穂は、地域の方との触れ合いと助け合いを大切に、入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思える介護に専念する事とする。」との理念を掲げ、全職員で共有し、実践に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、ミーティングや職員会議で話し合い、日頃のサービスの中で実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会や幼稚園のお遊戯会のお誘いを頂き、交流を持つ事が出来ている。又、市の敬老会に作品を出品したりと日々の生活の中で目標を持ち行っている。	町内会はあまり活動が活発でないこともあって、参加していない状況です。ただ、市の敬老会、小学校運動会見物、ボランティアによる習字指導を受け入れ、地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度は実施いたしましたが、今年度は実施予定がなく、来年度には実施する予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時、報告を行うと共に意見交換をし、頂いたアイデアや意見を取り入れて実践につなげている。	年3回、地域包括支援センター、区長、民生委員、家族、管理者、職員で開催しています。議題は、ホームの活動報告、地域交流の進め方等で、意見交換を行い、サービスの向上に活かしています。	従来の議題の他、「外部評価説明と課題の改善状況」「介護関係の基礎知識説明」「業界のその時々課題(インフルエンザ対策等)」を追加し、皆で話し合っサービス向上に活かしていく事が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員である地域包括支援センターの主任介護支援専門員への連絡や相談を行い、日頃から協力をいただいている。	市担当には随時報告し、相談しています。又運営推進会議には、必ず地域包括支援センターに出席頂き、意見を伺ったり、相談にのって頂いています。市主催の講習会には積極的に参加し、運営に役立っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に過ごして頂く為に見守り、声を掛け、寄り添い、外出等の工夫をしているが、どうしても玄関だけは、死角となり施錠をしている。	身体拘束排除を運営規定で謳い、マニュアルを作成し、職員は研修で勉強しています。玄関の鍵は、近くに踏み切りがあるので、安全のため日中でも施錠しています。現在、家族に事情説明し、同意を得ることを考えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修を毎年受けており、今年度は専門課程に1名の職員が参加し、ミーティングの際に報告している。日々、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方で、成年後見制度を利用されており、ミーティングなどでもパンフレット等を利用しながら、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、十分に説明をし、了承して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際にも、ご家族からの意見交換をしている。日常的に入居者の方やご家族へ意見や希望を伺うと共に、お便りの発送時にコメントを入れている。	家族の来訪時に、意見・要望を聴き、サービスの向上に努めています。又運営推進会議でも、出席した家族の意見を聴き、運営に反映しています。実施例としては、「ポータブルトイレの使用」「重度利用者の外気浴」等があります。	ご家族には運営推進会議に出席できない方や皆さんの前で発言し難い事もあるので、各居室毎に連絡帳を準備し、訪問してきた家族に要望等を書いて頂き、ホーム側が応えるようにしてはいかがかと思われます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の勤務の中で意見や希望、アイデア等を聴き、意見交換をすると共にミーティングの際には、活発な意見交換がなされて前向きに取り入れている。	職員から、日々の就業時や月1回の職員会議で意見を聴き、運営に反映しています。実施例としては、「猛暑時期の扇風機取り付け」「買い物の一部を業者配達に切り替え」「日用雑貨を安く購入する工夫」等があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を良く把握していると共に、職場環境・条件の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の勤務との調整で可能な限り、外部研修への参加や法人内部での研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	安房地域のグループホーム管理者の集いを定期的に開催している他、相互の職員の交流研修や医療連携(看取り)等の勉強会を行い共に向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの話を傾聴し、そして共感する。寄り添いや見守りを通して、本人の気持ちを察しての気配りをする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談を受けた時点から、家族の思いや相談等、何でも話して頂ける様な雰囲気作りを心掛けて聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている事に目を向け相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす意識で接し、食事作りや洗濯、掃除等、日常生活の中から互いに支え合って、気軽な会話や笑顔の多い毎日となっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃本人の様子を電話で伝え、相談しながら協力し合い支援すると共に、面会の際には、一緒にお茶を飲みながら、話をしたり交流を持つ事が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の他、兄弟姉妹や近所の方、親しい方の面会が得られており、職員は本人との関係を把握する事で会話の中位をしたりし、触れ合いを大切にしている。	隣が病院なので近所の親しい方が外来の帰りにホームに寄り、談笑しています。あまり面会に来ない家族には、入居者が不穏になった時に愛用していた鏡台を持ってきて貰い、落ち着く配慮をしています。近くの海岸に行ったり、馴染みの郵便局に手紙を出しに行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性やその時々々の状況を把握して、安心して交流し合える様に座席の工夫や関係調整に配慮した声掛けを行うと共に利用者同士の自然な関わりを大切にしたい見守りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談等に対応出来る事を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聴く事と共に、本人の様子に合わせて、本人の立場に立った意向を組むようにしている。	利用者本位に支援しています。物盗られ妄想がある入居者には、大事な物(財布等)はウエストポーチに入れて持って貰い安心できるように努め、真っ暗闇を好む方には、夜間見回りに懐中電灯を使う等しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴等を本人や家族から聴き、アセスメント表を活用して記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動や言動を細かく捉えると共に、毎日の健康状態の確認をして、個別介護記録に記入し、全職員が把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き入れながら話し合い、本人本意の介護計画の作成を心掛けている。	介護計画作成者が中心になり、本人や家族の意向を尊重し、必要に応じて医師や看護師の意見も反映して、介護計画を作成しています。モニタリングは利用者の状況に応じて1ヶ月から3ヶ月毎に行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の暮らしの様子と支援者の関わり(職員家族等)、気付いた内容を個別介護記録に記入すると共に、申し送りにより職員間で共有し、実践に繋げている。また、介護計画の経過の把握と見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身近な方々の協力や学校、病院、社会福祉協議会、地域包括支援センターなどの協力を得ながら、イベントなどに安全に参加する事ができ、多くの楽しみを感じながら、暮らす事の支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向に沿ったかかりつけ医での継続的な受診で主治医との連絡相談を行っている。	隣接している総合病院の外来に職員が付き添い受診しています。職員が無理な時は家族が付き添っています。訪問看護は週一回、血圧測定や健康状態の把握をし、尿のカテーテルが入っている方には、流れを確認しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化の気づきを訪問看護師に報告、相談して必要な手当と早期受診に繋げる事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、医療機関との情報交換や相談を密にして、本人にとって良い状態に繋げるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に確認すると共に、施設での可能な支援について説明し、家族の意向を随時確認しながら主治医等の関係者と相談して、医療機関への入院や施設での看取りの支援を行っている。	本人や家族が希望した場合は、看取りまで行う体制が整っています。看取りに関する同意書は、入居時と終末期を迎えた時の2回交わし、万全を期しています。今までに3名を看取り、家族から感謝されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し、実践に備えている。消防士による応急手当の勉強会には参加しているが、定期的な訓練は、行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成している。	隣接病院との合同自主訓練を実施しています。消火器・火災報知器が設置され、壁には緊急時対応表・連絡先が掲示されています。スプリンクラーは、現在取り付け工事中で、2月初旬に完成予定です。備蓄は準備されていない状況です。	年間、消防署を呼んだ訓練と利用者・職員による自主訓練の2回を実施、自主訓練では夜間を想定し近くに住む職員が駆けつける等、早急に実際的な訓練を行うこと、および3日分の備蓄をしておくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の意識を持って、周囲の方への配慮をしながらの対応を心掛けている。	トイレ誘導の時に、他の入居者に分からないように声かけしたり、本人が立った時にさり気なく誘導するなど、プライバシーに配慮をしています。女性入居者が多く、職員も女性が多いため、ほぼ同性介助が可能な状況です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のスペースを大切に、その時々の状態を見極めて本人が理解出来る様な声掛けを行い、思いや希望、意見を受け止めるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿った過ごし方が出来るように柔軟な対応を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の状況に合わせたアドバイスや介助を行っている。本人の希望の物や似合う物を職員と一緒に買い物に出掛けたり、理・美容など希望に沿った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好の把握をし、献立作りに希望を取り入れ、食材の買い物、調理、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、食器拭きなど、個々が出来ることに目を向け支援している。職員と一緒に食事をしている。	栄養バランスを考慮した病院作成の献立表を基に、食事を作っています。利用者の好みに合わせ、同じ食材で別メニューを作る時もあります。食材の買い物、調理、配・下膳、食器洗い等できることは利用者がしています。時々利用者の好みに合わせた外食に出かけ喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をその都度確認すると共に、記録をして職員間で共有しながら、必要な量が確保出来る様に、声掛けの工夫や、調理や水分の形態、提供回数などの工夫をして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の歯磨きや義歯洗浄などの口腔ケア、本人の状態に合わせた声掛けや介助をしている。 就寝前には、義歯を洗浄液に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの自立心を大切に、本人の尿・便意に合わせた支援や、排泄表を活用してパターンを掴みながらの声掛け、本人の習慣からの排泄のサインを掴み、本人の能力に応じた見守りや介助を行っている。	約半数の方が自立で、機能低下ないように支援しています。オムツの方は排泄パターンを把握して早めに声かけを心がけている結果、オムツの経費削減に繋がり家族から喜ばれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、排泄のタイミング、腹圧をかけ易い姿勢の工夫など個々に合わせた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や衛生面に配慮しながら、本人の希望に沿っての入浴を行っている。拒否が見られる場合には、本人の状況に合わせた声掛けの工夫などしてタイミングを掴んで支援している。	週3回は入浴できるように支援しています。健康状態によっては、清拭に切り替えています。入浴拒否の方は翌日に又声かけをし、無理強いしないような気遣いをしています。又脱衣所の温度が生活の場とあまり変わらないよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望に合わせて、休息や昼寝などと共に、個々に合わせた就寝時間に対応している。また夜間の見守りや体位変換介助などで安楽の支援の他、日中の外気浴や活動を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際に医師に確認すると共に、処方された薬剤の説明書の確認、保管をしている。服薬時には、本人確認及び、薬の確認をして服用の支援をしている。症状の観察により状況の把握に努め、訪問看護師、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴から得た情報や本人から希望によりサークル活動参加や家事活動の他、個々に合わせた役割内容を取り入れ、自然に行える様な雰囲気作りをしている。好みの食べ物、飲み物の提供や好きな音楽などを時々合わせて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出来る限り出掛けられるように努めている他、ドライブ、外食、運動会観戦、歌謡ショー見学等の催しへ参加して喜ばれている。	天気の良い日には、歩行が可能な利用者は30分、近くの海まで散歩しています。車椅子の利用者は、日向ぼっこして外気浴を楽しんでいます。遠くは、丸山の白牛見物、千倉のお寺の紅葉狩り等に出かけ喜ばれています。初詣は、館山八幡神社に行く予定でしたが、風邪の入居者が多いため中止しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりのご家族の了解のもと、個々の能力に合わせて所持し、使用できる支援や支払時の見守りなどの支援などを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の清潔保持に努め、空調や明るさなどに配慮し、日用品や生き物、植物などで生活感、季節感を感じられるように工夫している。また、声の大きさやテレビ、音楽の音量に配慮して居心地の良い場所の提供に努めている。	共有空間は、明るく、清潔で、こじんまりとして、家庭的な雰囲気を感じます。時節柄加湿器が置かれ、部屋には季節の花が飾られ、壁には行事のスナップ写真、利用者の習字作品、職員と利用者合作のちぎり絵等、利用者が生活感、季節感を感じるよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるように椅子を置くなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち物は、本人の好みの物や使い慣れた物を持参していただき、思い思いの配置で使用している。	利用者は、自分のなじみの物(ベッド、籐椅子、テレビ、時計、家族写真等)を持ち込み、自分の家のように過ごしています。衣替え時期には、原則家族にして頂くようにしていますが、都合が悪い時は、職員が手伝うようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を下げて、自分の部屋が分かるようにしている他、トイレなど目印となる物を下げて混乱の防止に努めている。また、掃除用具などはいつでも使用できるようにしている。		